

会議録

会議の名称	第2回 枚方市改革・改善サイクル評価員会議
開催日時	平成26年7月14日（月）17時30分から18時23分まで
開催場所	枚方市役所別館4階 第2委員会室
出席者	正木啓子評価員、三木潤一評価員、和田聡子評価員
欠席者	-
案件名	(1) 点検・評価対象事務事業の決定について (2) 一次点検・評価の実施について (3) その他
提出された資料などの名称	資料① 【所管部署選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果について 資料② 【評価員選定分】点検・評価対象事業グループの選定結果について 資料③ 【評価員選定分】点検・評価対象事業の選定結果集計表（検討資料） 資料④ 【評価員選定分】点検・評価対象事業選定シート 資料⑤ 【補助金事業選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果について 資料⑥ 今後のスケジュール 参考資料1 事業概要説明シート（様式） 参考資料2 類似事業グループについて
決定事項	枚方市改革・改善サイクルにおける平成26年度点検・評価対象事業を決定 一次点検・評価の実施方法を決定
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録などの公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	1人
所管部署（事務局）	行政改革部 行政改革課

審 議 内 容

開 会

座 長：それでは、定刻となりましたので、ただ今より、第2回枚方市改革・改善サイクル評価員会議を開催いたします。

まず初めに、事務局から配付資料等について、確認をお願いいたします。

事務局：それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料は本日の案件を記した次第と、**資料①**【所管部署選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果について、**資料②**【評価員選定分】点検・評価対象事業グループの選定結果について、**資料③**【評価員選定分】点検・評価対象事業の選定結果集計表（検討資料）、**資料④**【評価員選定分】点検・評価対象事業選定シート、**資料⑤**【補助金事業選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果について、**資料⑥**今後のスケジュール、**参考資料1**事業概要説明シート（様式）、**参考資料2**類似事業グループについてとなっております。

過不足等は、ございませんでしょうか。

また、本市では5月1日よりクールビズに取り組んでおりまして、本日も職員がノーネクタイ、ノー上着にて出席させていただいておりますことをご了承願います。

事務局からは以上でございます。

座 長：ありがとうございます。

第1回目から枚方市改革・改善サイクルに関するこの間の動きでございますが、前回5月19日の第1回評価員会議におけるご意見等を踏まえまして、決定いたしました実施方針に基づいて、各評価員におきまして、点検・評価対象グループについての検討を行いました。

また、その検討グループの中から、第2段階として、それら各々のグループの中から、今年度において点検・評価対象とする事務事業の選定作業を行ってきたところでございます。

一方では、所管部署においても、点検・評価対象事務事業の選定を行っていただいたということでございます。

本日の評価員会議では、これを踏まえまして、それぞれの案件につきまして、議論を深めてまいりたいと存じます。

案件（1）点検・評価対象事務事業の決定について

座 長：それでは、案件（1）点検・評価対象事務事業の決定についてといたしまして、各評価員の選定作業の結果をもとに、点検・評価対象事業の決定を行っていきたいと思えます。事務局より資料等の説明をお願いいたします。

事務局：それでは、お手元の資料①【所管部署選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果についてをご覧ください。

こちらの資料は、各所管部署において、拡充・見直しなどを検討している事業を選定した一覧となっております。

各部1事業以上を選定し、全部で26事業となっております。

資料の見方といたしましては、表の左から、「各所管部署名」として、部と課の名称を記載しております。次に「事務事業名」、次にその事務事業を分類いたしました「類似事業グループ」となっております。

類似事業グループの詳細につきましては、参考資料2類似事業グループについてをご参照いただければと存じます。

これらの26事業につきましては、類似事業グループに関係なく、すべての事務事業を平成26年度の点検・評価対象事務事業とすることとしております。

次に、資料②【評価員選定分】点検・評価対象事業グループの選定結果についてをご覧ください。

こちらの資料は、類似事業グループごとの事業一覧を参考として、各評価員のみなさまに、点検・評価対象事業グループを選定していただいた結果を集計した資料となっております。

資料の見方といたしましては、表の左から、「類似事業グループ名」、次に、そのグループにおける「事業数」、そして、評価員のみなさまが、点検・評価対象グループとするべきとチェックをされた評価員数を記載しております。

この選定結果に基づきまして、3名の評価員全員が点検・評価対象グループとするべきとしてチェックをされた、網掛けを行っております「6. 負担金交付事業」、「8. イベント関係事業」、「11. 情報発信事業」、「16. 保健・医療事業」、「23. その他サービス提供事業」これらの5グループにつきまして、平成26年度の点検・評価対象事業グループとすることを決定させていただきました。

なお、「7. 補助金事業」につきましては、前回第1回評価員会議でのご意見等を踏まえまして、別枠での選定とすることといたしましたので、こちらの資料では斜線を引いております。

詳細につきましては、後ほど資料⑤【補助金事業選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果についてでご説明させていただきます。

次に、資料③【評価員選定分】点検・評価対象事業の選定結果集計表（検討資料）をご覧ください。

こちらの資料は、平成26年度の点検・評価対象事業グループに決定いたしました5グループにつきまして、評価員のみなさまが、点検・評価対象事業とするべきとチェックをされた事業数を事業グループごとに表示しております。

資料の見方といたしましては、表の左から、「グループ名」、次にそのグループにおける

「事業数」、そして、「事務事業選定チェック」といたしまして、評価員のみなさまが、点検・評価対象事業とするべきとチェックをされた事業数をグループごとに表示しております。

負担金交付事業を例にしますと、負担金交付事業に分類いたしました21事業のうち、3名の評価員全員が点検・評価対象事業とするべきとチェックをされた事業が1事業、2名の方がチェックをされた事業が6事業、1名の方がチェックをされた事業が4事業、といった形で記載しております。

次に、**資料④**【評価員選定分】点検・評価対象事業選定シートをご覧ください。

こちらの資料は、平成26年度の点検・評価対象事業グループに決定いたしました5グループにつきまして、そのグループに分類いたしました全事務事業を記載し、点検・評価対象事業とすべきとしてチェックをした評価員数を事業ごとに記載した資料となっております。

表の右側にあります「点検・評価対象事業」欄は空白としておりますので、この後、点検・評価対象事業を選定していただく際に、ご活用いただきたいと考えております。

最後に、**資料⑤**【補助金事業選定分】平成26年度点検・評価対象事業の選定結果についてをご覧ください。

類似事業グループのうち、補助金事業グループにつきましては、平成26年5月9日に「補助金の適正化に関する基準」を制定したことを踏まえまして、前回第1回評価員会議において、別枠として事業選定を行う旨のご意見をいただきました。

その後、同基準に基づきまして、本年度、本市の全補助金につきまして、公益性・必要性・公平性・有効性・妥当性の視点から、各所管部署による確認を行い、その結果を踏まえまして、さらなる適正化を図るため、この8事業につきましては、外部評価の対象事業とすることといたしました。

なお、8事業のうち「4. 人間ドック費用助成事業」と「7. 私立幼稚園保育助成事業」につきましては、所管部署による選定事業のため、資料①にも同事業を記載しております。

こちらの8事業につきましては、平成26年度の点検・評価対象事務事業としていただき、改革・改善サイクルの流れにそって、他の事務事業と同様に、点検・評価を実施していただきたいと考えております。

資料の説明は、以上となります。

座長：ありがとうございます。

資料がかなり多くて、評価員の方も大変だったかもわかりませんが、ただいまご説明いただきました資料につきまして、資料の順番に確認を行いまして、それから、点検・評価する対象事業の決定を行ってまいりたいと思います。

それでは、各評価員が話し合うというよりは、それぞれが独立した独任制で、選んでいるということもございまして、**資料①**各所管部署により選定いただきました事業です

が、これにつきましては、全26事業を点検・評価の対象事業とすることで、よろしいでしょうか。

<異議の声なし>

座 長：これにつきましては、特段のご意見というのはいかがでしょうか。

<意見等なし>

これはよろしいですね。各事業課で選ばれたということですので。

それでは、**資料①**各所管部署により選定いただきました26事業につきましては、点検・評価の対象事業とすることにいたします。

次に、**資料②**評価員選定による事業グループの選定結果につきまして、まず、決定を行う前に、作業をした時のご感想とか、資料を読まれてどういう感触だったかというのを、意見交換をしたほうがいいかなと思いますので、各評価員の方からご意見を伺えればと思います。

まず、私から、先に考え方のお話をさせていただいてもよろしいでしょうか。

24年度、25年度で963事業という多くの事業を個々に総点検してきましたが、その中では重点棚卸事業ということで、多くの事業内容に改善をしていただいたというか、そういう方向が見られたというのは、たぶん、私だけでなく、ここにおられる評価員全員が、すごく嬉しく喜んでいると思います。

26年度、27年度も、前の二年間の結果と色々な課題を踏まえまして、今回は事業をグループ分けして、一定の共通性に基づいて、もっとさらに実効性があるような事務事業の改善を進めたいというふうな見方で、グループ分け及び事業の選定の時に考えてみました。その中で、今回の改革・改善サイクル点検評価の視点というのも、基本的にはこれまでと同じで、一つ目は、事業の必要性・効率性・有効性の観点からの検証と、それから市民への説明責任の履行と、職員の意識改革の推進ということで、具体的には、市がする事業として、一般的に市民が納得できるか。市として、行政としてどうしてもやらなければならない事業か。やらなければならないなら、もっと費用を安くできないか。費用が安くできないなら、もっと効果を上げる方法はないか。最近の社会情勢の変化に対応して、先行して手を打つことはできないか。そういった内容の視点でございます。

今回、グループ分けに基づいて行う評価といたしましては、今、申し上げた視点に加えて、グループ分けをしたというのが、なぜグループ分けしたかということをごちょっと考えたんですが、他に類似する既存の事業や新規事業の運営に活かせる推進方法や課題はないか。これは、経験の連続性というようなことで考えました。

それから、制度や目的は異なっているけど、他の部局で進めている同じような推進方法、もっと合理的な推進方法はないかどうかということで、これは異事業というのか、他部局というのか、そういったところの連携ができないかというように考えてみました。

それから、実は、一番問題というのが、行革が自分の仕事ではないと思われて、いろいろ作業をされているような思いもしましたので、全員が行革の担当課で仕事をしていたらどうするのかと。他の所管の方々も全員行革担当だったらどうするのだろうか。

それは意識改革を超えて、職員としてどうするというようなことを考えたら、このと

ころはどうなるかなというふうな感じで、今年は選定の時に考えてみました。

それから、事務局の方からぜひ選定事業の所管課に申し上げていただきたいんですが、私たち評価員も最大の努力でいろいろ対応したいと思っておりますので、担当課の方々というのか、事業をやめるか進めるかという事業仕分けではないと。そういう事業仕分けではない評価ということをご認識いただいて、将来に向けての宿題を片付けている。そういう気持ち、あるいは、職員全員行革課員になったと、そういうつもりで、資料作成をぜひお願いしたいなと思います。

非常に、実は、資料を見せていただいている時に、われわれが万能のような形で書かれているような資料もございまして、みなさんにわかりやすい、市民にも私たちにもわかりやすいご説明と資料で、意見交換ができればというふうに思っておりますので、ぜひ先入観も思い込みも捨てて、一緒にやっていければというふうに思いました。

資料の1つずつの感想というのは、ここでは申し上げませんが、全体として、ぜひ資料を作るときに、自分が行革担当だったらどうだろうというようなことで、きちっと作っていただきたいなということで、これは所管課の方へぜひお伝えいただければと思います。

ということで長くなりましたけれども、資料を読まれた時のご感想等、先生方いかがでしょうか。

評価員：まず、今、座長のほうから、かなり雑駁どころか、全部総括していただいたので、座長のおっしゃるとおりで、ぜひちょっと所管課の方に、もうちょっと丁寧な資料をといますか、いただきかったかなというのはもちろんなんですが、座長のほうから大方のことを言っていて、1つ、私の方で厳しい部分で要望といいますか、今回、この資料を3箇所程、例にとって申しますけれども、事務事業実績測定調書の真ん中から下のところですが、達成目標と指標推移と実績というのが、それぞれ事務事業にございますが、座長がまさにおっしゃったように、所管課の方が自分が行革担当だったらどのような目標に向かって、それに対してどういう実績があり、それに対してどうするのかという裏面の具体的な取り組みなんですけど、ここが今回、我々評価する人間からしますと、あまりにもシンプルというか、所管課の方が、本当にそれをどう思っているのかが伝わってこないんです。

具体的に申しますと、達成目標とか実績の内容という部分に、項目として非常に多かったのが、会議の開催数とか出席者の数があるんですが、そういうので、その数にいったからといって、実績を書かれているのが大半なんです。でも、それは、義務的にやったという報告であって、何の評価にもならないんです。

例えば、負担金の一番最初の1ページですが、こちらは私、最初から丸をつけたんですが、例えばこちら見ていただきたいのが、達成目標が書かれているんですが、実際の指標としましては、会議の開催回数ということで、年に何回しますよというのを決めて、ノルマとして、会議の内容、質が問題なのに、回数だけで実績が100%到達しますが、これは到達目標とはおおよそ言えないわけです。

そういうものが、開催数の一番の典型な調書なんですが、これは調書と呼べるかというところと非常に疑問を抱きました。これが負担金のところなんです。

イベントのところで申しますと「7. にぎわい空間創出事業」ですけども、こちらを見ていただきますと、まさに市民主催のイベント実施回数を月1回程度と設けているわけですから、もし2回すれば200%といいますか、その回数で評価できない。内容がいかに充実したかということなんで。

あと、保健・医療グループですが、「15. お達者基金介護予防事業」というのがございますが、たまたまこの3つぐらいが典型なんですけど、こちらも、講演会、教室等への参加者数が指標推移になっておりまして、参加者数が多かったらいいかと思いきや、具体的にどういう講演会をして、どういう内容でという表記がまったくないんです。

後ろをみていただくと、事務事業の実績というもので、15講座開催というので、その内容がこの事業としては大事なんですけども、講演会等のものについては、参加者数とかも個別にだしていく必要があると思うんですけど、その辺を今回コメントに書かせていただいておりますが、今回3つほど提示させていただいて、これでは評価のしようもないし、やはり、座長が冒頭に言ってくださったように、そこの所管課の方がとりあえず出しておけというような。回数とか一番出しやすい数字だけで目標実績というのであれば、今後評価には問題になってくると思いますので、3パターン例示させていただきました。ちょっと厳しいですが、そこのところを所管課の方にご確認・ご要望のほどお願いしたいと思います。

座長：ありがとうございます。

評価員：私も先生方がおっしゃられたことと評価しながら感じていたのは、まったく同じなんですけれども。例えば、一番先頭の方で、先ほど先生がおっしゃられたみたいに、メモで回数が問題ではない。と書いていたんですけど、そういうことを言い出すと全部気になってしまって、選ぶことができない。逆に言えば、全部聞かなければいけないということになって、丸をつける上で、選ばなければいけないという意味で、本当は全部聞きたいところだけれど、金額であったり、私なりに重要と思うものだけを選んで数を減らしたということがありました。

あと、今回私が思ったのは、せっきくグループを選定してその中で事業を選んでいくという方法によって、前回のこれまでの2年間とどういう違いを出せるのかというところを考えたときに、やはりグループの中で特徴ある一体となって考えられるものがその中にあるはずというようなことが大事なんではないかと考えまして、そういう意味で課が違ってそれを一体として検討するというようなことがグループ選定の重要な意味であろうと思ひまして、そういう視点で選んだというのも今回考えたところなんです。

ただ、そうは言ひましても、その他サービスとかもいっぱいありまして、これはグループと言えるかというのが。これまでやっていたのと同じことをやらざるをえないということも思ひましたけれども、全体としてはそういうのを心がけたというのが今回でございます。

座長：かなり、先生方からも厳しいお話がありましたが、全体として、これまで少しは資料を見せていただいていることが頭に残っているもので、類推はできるんですけど、この資料だ

けでの判断というのは非常に難しかったですね。

やはり、今先生がおっしゃっていただきましたが、同じグループの中で、例えば負担金というのは、どこまでだったらやむをえないといえますか、少しグループの中の考え方の整理がいったのかなという気もしますね。

基本的に一人ずつ独任制でばらばらにやっているから、できるだけ話しはせずに、自分の考え方でやりましようと言ったんだけど、ひょっとしたらグループを決める時に、グループの中の考え方というのは、ちょっと話しての方がよかったかなという気もしますね。そここのところが自分で選びながら、若干の不安感はありました。

では、3評価員とも共通で、資料については不十分であるというのがでておりますので、その点をまた事務局もよろしくお願いいたします。

事務局：はい、ありがとうございます。

座長：いろいろはありましたが、それぞれ意見を出しながら選定ということもやっておりますので、各グループの選定をした。あとグループの中で点検・評価対象事業を選んできたということで、それぞれが、誰が何をしたか自分以外のことはわからないという状況でございますので、まず、選定結果をもとに、点検・評価対象事業の決定を行っていきたいと思います。

第1回目の時に少しお話をしていますけど、今回の考え方も、3人それぞれがチェックをつけたものを上から選んでいくと。3名が丸をしたもの、2名が丸をしたもの、というような形で、いくつになっているかもそれぞれよく理解していませんので、自分の丸をつけたものが入っているかどうかということも若干わかりにくいところもあるので、それについて、ご説明いただきたいと思います。

その前に、一応、丸が3つあるものから選ぶという形でいいですか。

<異議の声なし>

数がある程度きたところで、止めるということにするのか、あるいは、丸が3つ、それから、丸が2つ。2つ以上のものを選定という形で、3名のうちの2名以上が丸をしたものという形でよろしいですか。

<異議の声なし>

そうしましたら、2名以上ですね。3分の2以上がチェックしたという事業を今回の点検・評価対象事業とするということで、決めていきたいと思います。

それでは、事務局の方で、平成26年度の評価員選定分においての、点検・評価対象事業について、3名がどれだけ選んでいるのか、3名のうちの2名が何を選んでいるかということで、読み上げのほうをお願いしていいですか。

事務局：それでは、評価員の皆様に選定いただいた事務事業につきまして、ご確認いただきたいと思っております。資料③をご覧ください。

評価員3名が選ばれた事務事業につきましては、5グループの合計で15事業ございます。それから、評価員2名が選ばれた事務事業につきましては、5グループの合計で54事業となっておりますので、2名以上が選ばれた事務事業の合計は69事業となっております。

それでは、選ばれました69事業につきまして、資料④をご覧くださいながらご確認いただきたいと存じます。

3名が選ばれた事業については、その都度、お知らせさせていただきます。事業名だけをお読みするのは、2名が選ばれた事務事業です。

まず、6. 負担金交付事業グループから読み上げさせていただきます。

1番目「学園都市ひらかた推進協議会事務」、2番目「北河内地域労働者福祉協議会負担金交付事業」、5番目「ひらかた観光ステーション施設運営事業」、6番目「文化観光協会負担金交付事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。

7番目「エコ農産物普及拡大事業負担金交付事業」、9番目「津田地蔵池オアシス共園維持管理業務負担金交付事業」、15番目「大阪ふれあいキャンペーン事業負担金交付事務」となっております。

次に、8. イベント関係事業グループでは、2番目「ボランティア表彰事業」、5番目「追悼式典業務」、6番目「「マルシェ・ひらかた」開催事業」、7番目「にぎわい空間創出事業」、8番目「海外友好都市交流推進事業」、10番目「国内友好都市交流推進事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。

続きまして、13番目「枚方市魅力発信事業」、14番目「友好・交流都市物産展開催事業」、20番目「生涯学習市民センター活動委員会事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。

21番目「生涯学習事業」、こちらにつきましても、3名が選ばれた事業です。

続いて裏面をご覧ください。24番目の「文化振興事業」につきましても、3名が選ばれた事業です。次に、25番目「ふれあいツアー開催事業」、30番目「成人祭（はたちのつどい）事業」、31番目「スポーツ振興推進事業」、32番目「各種スポーツ大会等開催事業」です。

次に、11. 情報発信事業グループでは、1番目「FM放送活用事業」、2番目「ケーブルテレビ放送活用事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。

6番目「広報活動及び報道機関対応事務」、7番目「市勢要覧発行事業」、15番目「教育委員会広報事務」となっております。

次に、16. 保健・医療事業グループでは、3番目「健康医療都市ひらかた推進事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。4番目「災害医療対策関係事務」、5番目「食育推進事業」、7番目「特定健康診査・特定保健指導事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。8番目「保健事業」、9番目「健康づくり推進事業」、10番目「成人歯科保健事業」、11番目「成人保健事業（がん対策事業除く）」、13番目「特定保健指導事業」、17番目「介護予防普及啓発事業」、18番目「高齢者鍼灸マッサージ事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。続いて、20番目「生きがいと健康づくり推進事業」につきましても、3名が選ばれた事業です。

裏面をご覧くださいまして、23番目「二次予防事業」、以上が保健・医療グループで選ばれた事業です。

次に、23. その他サービス提供事業グループでは、2番目「モニタリング事業」、3番目「市民の声運営事務」、4番目「コミュニティ連絡協議会運営事務」、8番目「産業振興コーディネート事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。

9番目「エコレンゲ米等産地消推進事業」、12番目「福祉バス運行委託事業」、16番目「障害者タクシー基本料金補助事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。

17番目「障害者の就労支援事業」、19番目「障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業」です。

裏面をご覧ください。22番目「精神障害者通所交通費補助事業」、23番目「福祉移送サービス共同配車事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。24番目「高齢者外出支援カード配付事業」、27番目「父子家庭生活支援員派遣事業」、30番目「ファミリーサポートセンター委託事業」、32番目「地域子育て支援拠点事業」、こちらは3名が選ばれた事業です。34番目「育児支援家事援助事業」、37番目「枚方市規格葬儀事業」、41番目「塵芥収集業務」、こちらは3名が選ばれた事業です。

42番目「第二京阪道路沿道まちづくり関係事務」、47番目「セルフわらしべ乗馬体験事業」、52番目「「まなびング」サポート事業」、53番目「英語教育推進事業」、55番目「学校支援社会人等指導者活用事業」、56番目「基礎学力向上プロジェクト事業（教育指導課）」、58番目「小中連携事業」、62番目「自動車文庫運営事業」、64番目「図書館分館運営事業」、65番目「図書館分室運営事業」、66番目「中央図書館運営事業」です。

以上で69事業となっております。

座長：ありがとうございました。

2名以上が丸をつけたもので、今読み上げていただいた69事業ということですが、これでよろしいでしょうか。

<異議の声なし>

私が話しを戻してはいけないんですが、1つ言い忘れたことがございまして、先ほど意見の中で申し上げなければいけなかったのですが、作業をされていて、事業名と中身がぜんぜん違うものがあるんですが、事業名を中身にあわせて変えるというのは、難しいんでしょうか。たぶん、市民から見てもまったくわからないと思うんですが。

事務局：事業名を変えることはできます。ただ、一旦公表しているものを変えるのはなかなか難しいところもありますが、年度当初に変えることは可能です。

座長：何かの機会がいいんですけど。特定の話をしていいかわかりませんが、「枚方市魅力発信事業」というのがわからなかったんです。

評価員：以前も話題になりましたよね。結婚式をやっているとか。

座長：何かの機会があれば、中身にあわせて名称を変えるか、あるいは目的が必要で、中身が十分ついていっていないなら中身を充実するとか、どちらかで対応していただかないと、あまりに名前と中身が違いすぎて。それもぜひお願いしたいなと思います。すみません話を戻してしまいました。

そうしましたら、評価員が選びました69事業を対象事業に決定したいと思います。
引き続きまして、評価員が選定しないと前回決定いたしました資料⑤補助金事業選定分の点検・評価対象事業の選定結果についてですが、基準が既にできているということで、市の方で選定をいただきたいということで、お願いしましたが、先ほどのご説明で8事業が選定されたということですが、こちらにつきましては、事務局からのご説明をお願いいたします。

事務局：前回の第1回評価員会議におきまして、別枠として事業選定を行う旨のご意見をいただきましたので、行政が自ら、自己評価ということで、基準に基づきまして評価した結果、行政改革課の方で8事業を選定したものでございます。

座長：そうしましたら、これについては、今回の点検・評価対象事業とするということによろしいですね。私どもが選んではいけないんですけれども。

＜異議の声なし＞

座長：それで、やり方といたしましては、基準で選ばれてはいるんですけれども、揃えて同じ考え方で、点検・評価を行う。横並びで私どもが選んだ分と市が選ばれた分と一緒に見て同じ考え方で点検・評価を行うということにしたいと思います。
これで平成26年度の点検・評価対象事業はすべて決定いたしましたので、次に移りたいと思います。

案件（2）一次点検・評価の実施について

座長：それでは、案件（2）一次点検・評価の実施について、説明をお願いいたします。

事務局：それでは、一次点検・評価の実施について、ご説明いたします。

資料⑥今後のスケジュールをご覧ください。

一次点検・評価は、本日選定いただきました点検・評価対象事業を、本市において、7月下旬頃までに、一次点検として、参考資料1事業概要説明シートを作成するとともに、点検を行いたいと考えております。

その後、8月上旬～下旬頃に、一次評価として、一次点検結果をもとに、評価員のみなさまに評価を行っていただき、さらに点検が必要な二次点検事業を選定いただきたいと考えております。

説明は以上です。

座長：一次点検・評価の実施についてということで説明がありましたが、それからスケジュール的なお話もございましたが、確認しておきたい事項等ございますか。

資料の作り方が問題になっておりましたが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局：今回、参考資料1として添付しております事業概要説明シートですが、こちらのほうに、今お渡ししている実績測定調書からさらに細かいことを記載して評価員の皆さまにお渡ししたいと考えておりますので、先ほど評価員の皆さまからいただきましたご意見を担当課の方に伝えまして、市民が見ても評価員さんが見てもわかるような形にしたいと考えております。

評価員：特に裏面の方ですよね。成果目標達成状況ですとか。このあたりをぜひ詳しくお願いしたいです。ここがないと評価できない。

座長：先生がおっしゃった、なんていうか、目的のすれ違いというのか、すごい思い込みがあつて、本来は、例えば何かを開催するとしたら、開催でどういう結果がでるかが問題だと思うんですが、そうではなくて、開催の回数ですとかね。

事務局：おそらく活動指標しか書かれていないんです。どれだけ活動に投入したかというような量しか書いていないんです。今回はそうではなく成果指標を書いていただくような形にしたいと考えております。

座長：せっかく、これまでの事務事業総点検においても、いろいろご意見を申し上げていたので、引き続きといいますかいろいろな視点を交えて点検・評価を行うということですので、ぜひ、ご協力いただきたいと思います。
その他確認しておくこと、あるいは事務局にお願いしておくことはありますでしょうか。

評価員：ヒアリングというのはどの時点でののでしょうか。

座長：どうでしょうか。市の方として、担当課がぜひ聞いてほしいということであれば聞くことは可能ですけれども、ただ、先生方の時間等を考えたら、ある程度の数でしぼらざるをえないのかもしれないですね。スケジュールのお話も関係していくので、あとにしましょうか。

事務局：そうですね。先生方のご都合等をお伺いしないといけないので。

座長：ただ時期的にはどのタイミングでしましょうか。

事務局：一次評価の間といいますか、二次点検対象事業の決定を行う前にしていただければと考えております。

座長：一次点検の資料が出てきた段階で、どこどこを選ぶということで市の方に送り込んで、ヒアリングをするということでしょうか。また、3名が聞きたいとか、2名以上が聞きたいというような。あまりにたくさんになった時には、上からとかいう形になるかもしれませんが。だいたい8月末頃にできそうでしょうか。日程の関係もありますので、できたらやると。ヒアリングができなくても、評価員から質問を出して、答えを評価員全員にお送りいただくというようなことで。どちらにしても、一次点検の資料がでないとなんとも言えないので。とりあえず、内容の確認等はここまでということで、よろしいでしょうか。

案件（3）その他

座長：それでは、次の案件（3）その他について、事務局から何か連絡事項などはありますか。

事務局：本日は、多くのご意見、ご提言をいただき、ありがとうございました。今後、事務局で、本日の選定結果やいただいたご意見等を整理したうえで、一次点検の実務的な作業に入ってまいりたいと考えております。

次回の会議ですが、**資料⑤**今後のスケジュールにもごぞいますとおり、庁内における一次点検の結果を評価いただき、その取り扱いをご確認いただくための第3回の会議を、9月上旬に開催させていただきたいと考えております。

具体的な日程につきましては、改めてご都合をお伺いしたうえ、設定してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

閉 会

座 長：ありがとうございました。多くの意見というよりは、今日は評価員からかなりクレームに近いような感じではありましたが、いろいろ意見が出ておりますので、各関係課へお伝えいただきまして、お互いにこれからのいい枚方市を作るという、同じ土俵に立っての作業でございますので、ご協力いただきたいということをお伝えいただくということで、それをお願いいたしまして第2回評価員会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。